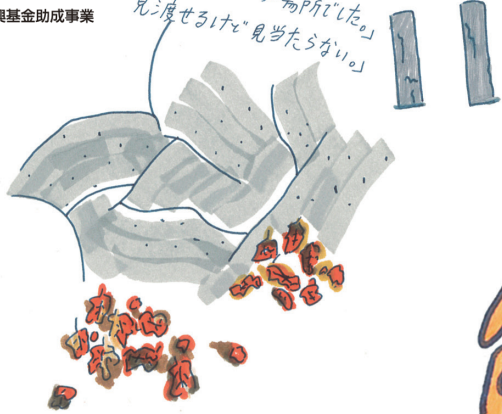




芸術文化振興基金助成事業

「ここは、私たちの場所です」
「見渡せるけど見当たらぬ」



第21回AAF戯曲賞受賞公演

魚が死んでる びよこたち

戯曲 守安久子 演出 羊屋白玉

福岡・札幌ツアー

2024年2月16日(金)・17日(土) 福岡公演 なみきスクエア大練習室

2月22日(木)・23日(金・祝) 札幌公演 生活支援型文化施設コンカリーニョ

石の封鎖の絶頂まで



さよならエブリバディ。

見えない子供
らの歓声
が、
土音が上がる。



魚が死んでるよこたち



魚が死んでるよこたち



出演:遠藤麻衣

神戸浩

スズエダフサコ

田坂哲郎 (非売れ線系ビーナス)

リンノスケ (きつとろんどん)

協力:非売れ線系ビーナス

手描きTシャツ屋 chobico

株式会社ステージルーネットワーク

さっぽろ天神山アートスタジオ

河野千晶(エンタメトレーナー) UniqueRhythmic

芸術文化振興基金助成事業

戯曲:宇安久二子

演出:羊屋白玉

(演出家・劇作家・俳優・
「指輪ホテル」芸術監督・
ソーシャルワーカー)

上演時間:約90分

美術:サカタアキコ、小駒豪

衣裳:佐々木青

照明:則武鶴代

音響:安達玄

舞台監督:糸山義則

プロダクションマネジメント・演出部:華健、築山竜次(愛知県芸術劇場)

イラスト:Aokid

チラシデザイン:tami graphic design.

動画制作:吉雄孝紀

制作:糸山裕子、阿部雅子

山本麦子(愛知県芸術劇場)

制作アシスタント:丸田鞠衣

門司美紀(アートマネジメントセンター福岡)



【福岡公演】

キビ37エス2024参加作品

日時 2024年2月16日(金) 19:30開演 *終演後7時から17時

17日(土) 14:00開演 *終演後キビ37エス実施
(開演は開演の15分前です)

会場 なみきスタジオ 大練習室 福岡市中央区千早4丁目(JR千早駅西側)

お問合せ トーナメントセンター福岡 (070-328-4141)

主催:一般社団法人指輪ホテル、愛知県芸術劇場、西部かつ新市開発株式会社、福岡舞台芸術施設運営共同事業体、なみきスタジオ、ネットワーキングみち地産振興グループ、福岡市

共催:福岡市文化芸術振興財団 制作協力:トーナメントセンター福岡



【札幌公演】

札幌国際芸術祭 2024

公募プロジェクト

札幌演劇シーズン2024-

冬サテライトプログラム

日時 2024年2月22日(木) 19:30開演

23日(金祝)14:00開演 *終演後7時から17時有
(開演は開演の30分前です)

会場 生活支援型文化施設コンカリーニョ
札幌市西区八軒1条西1丁目サ・クワ・グループビル2F (JR琴似駅直結)

お問合せ 北海道文化財団 (011-272-0501)

※月~金曜1時~17時30分

主催:一般社団法人指輪ホテル、公益財団法人北海道文化財団、愛知県芸術劇場

協力:札幌演劇シーズン実行委員会 後援:北海道



発売日 2023年12月2日(土)

チケット料金 福岡・札幌共通 全席自由 (税込み)

<一般> 前売り 3,500円 当日 4,000円

<U25> 前売り 2,000円 当日 2,500円 ※公演日に25歳以下の方(要証明書)

<高校生以下> 1,500円 (前売・当日共通) ※学生証提示

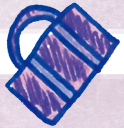
<小学生以下> 無料

※未就学児童入場可

※車椅子でご来場の方は、問い合わせ先まで事前にご連絡ください。

チケット料金割引

- 福岡公演は「キビ37フェス2024」他のプログラム半券提示で500円割引となる「キビ37割引」有
 - 札幌公演は「札幌演劇シーズン2024-冬」他のプログラム半券提示で500円割引となる「シーズン割引」有
- ※いずれも一般料金のみ
※前売購入の方は公演当日受付にてキャッシュバックしますのでお申し出ください。



購入・予約方法

◆ ローソンチケット(Lコード【福岡公演】82710 【札幌公演】11701)

◆ メール予約(※公演前日の23時59分まで前売料金、それ以降は当日料金)

件名:「鮭ひよチケット予約」

本文:予約希望日時、氏名、電話番号、券種、予約枚数を記入し下記までお送りください。

送信先: syakehiyo2023.24@gmail.com

※5日以内に返信のない場合は再送をお願いします。
※PCからの返信を受信できるよう設定をお願いします。



「ブレードランナー」を思春期に観たわたしは、大学進学で降り立った東京を「ここ未来じゃん」って思った、もちろん酸性雨にうたれながらね。歓楽街に「五十銭」という50歳以上の女性しか働けないおでん屋さんがあって、50歳になったらここで働くのがわたしの「未来」だと楽しみにしてた。厨房の下の小さな女の子と、よく目があっただけ、ただ酔ってたからだと思っ。甘い卵焼きと塩っぱい卵焼きがお品書きにあって、どちらかを選べる自分に「未来」を重ねていたし。

そして今、シャケひよの語り部、宇安久二子さんの術中にはまっている。最終章「つながり続く明るい未来」。どっかの政党の夢物語のようで黒いけど、明るい絶望があるならば、それはお告げのようにも思える。

第二のお告げを残してどこかで待っていてくれるともだちのことを記しておきたい。「空をふたつに分けるような細い雲が続いているよ。見えるだろ? 不安でたまらないよ。ここには居られない」わたしは、バカみたいに口をぽかんと開けて、まだ見上げてる。天災じゃないのはわかってる。空に昇って酸性雨の雲を散り散りに。



2023.11.1 初演の名古屋公演を前にして。羊屋白玉